

特設授業 「誕生学 ～生まれてきたことが嬉しくなると、未来が楽しくなる～」を実施

12月12日(月)に誕生学アドバイザー西平みゆき先生を講師に、産み生まれる力を認識することで、命の大切さや命を繋げる尊さを感じることに、自分を大切にすることをねらいとして、「誕生学 ～生まれてきたことが嬉しくなると、未来が楽しくなる～」の特設授業を行ないました。1・2校時に6年生、3校時に3年生を対象に実施しました。

1・2校時の6年生の特設授業では、命の始まりとお腹の中での赤ちゃんの様子、赤ちゃん自身が生まれるために工夫していること、そして、DVDで赤ちゃんがうまれる様子とそのときの家族の喜びの様子、赤ちゃんが生まれても愛情をかけなければ、生きていくことができないことなどを分かりやすい表現で詳しくお話していただきました。

その後、実際におもりの入った妊婦体験ジャケットを着用し、階段を上ったり、くつをぬいだりと妊婦さん体験をしました。妊婦さんの大変さを疑似体験することができました。そして、赤ちゃん人形をだっこしたり、疑似産道をとる体験をしました。

体験を全て済ませた後、生まれてきた命の大切さ、これから子ども達が迎える2次成長が命を繋いでいくための大切な成長であること、自分の体を他の人にはふれられたり、見られたりしたくないプライベートゾーンがあること等をお話してくれました。2時間という長い時間でしたが、子ども達は集中してお話を聞き、自分自身のこととして捉え、多くの学びをしたようでした。

3校時の3年生の特設授業もほぼ同じ内容でしたが、1時間だったので、体験をすることはできませんでしたが。それでも、子ども達は、DVDを見て、涙を流す子もいるほど、同じように生まれてきたことの喜びと、命の大切さを学ぶことができたようです。



写真1 6年生の「誕生学」の様子

写真2 6年生の妊婦体験

写真3 3年生の「誕生学」の様子

誕生学終了後の感想

今日、ぼくがお話を聞いてわかったことは、赤ちゃんはお母さんのおなかの中ではよう水というぬるい水の中にいるということです。思ったことは、ぼくもお母さんから守られていたということです。
(3年 崎山朝晴)

わたしは、赤ちゃんの成長のしかたにびっくりしました。私もあんなふうにそだったのかなあーと思いました。
(3年 米須乙華)

西平先生は、小さい赤ちゃんのときのことやどうやってうまれたのかを教えてくださいました。ぼくは、お家に赤ちゃんがいて、いつもだっこしています。赤ちゃんは、おなかの中にも、音が聞こえているということをはじめてわかりました。
(3年 謝花朝春)

今日、誕生学をして、心に残ったことは、お母さんはとっても大変なことをして、ぼく達を産んだということです。とっても痛い陣痛やおなかの中にいる赤ちゃんを支えていて、とっても大変なことをしているとわかりました。

また、おなかの中にいる赤ちゃんは、すぐに大きくなったり、自分で出やすいように頭を下にしたりと、すごい力を持っているとわかりました。今日、教えてもらったことをお家の人にも教えてあげたいです。
(6年 玉那覇真洸)

今日の誕生学の学習で思ったことは、私たちは家族やいとこ、親せきなどから大切にされて生まれてきたということです。ときどき、親に反抗する時もあるけど、今日DVDを見て、私もこんなに大切にされて生まれてきたんだと思うと、反抗してしまっていたいけなかったなと思いました。

命の誕生は、とっても幸せなことを知って良かったです。この幸せな気分をしてみたいです。

(6年 重田 亜和)